



「ヒロシマを最初で、ナガサキを最後の被爆地にしてほしい」

昨日の4時間目に、ナガサキの原爆についてお話を聴きました。お話をしてくださったのは、豊中市原爆被害者の会の伊達昭夫さんと高橋正彦さんです。

当時中学1年生だった伊達昭夫さんは8月9日の11時2分に、爆心地から6.5kmほど離れた山の上で陣地構築のための穴掘り作業をしていた時に被爆されました。

実家のある浦上地区は全滅、という情報を聞き、急いで家に戻ろうとしますが、その道々で見た光景は「この世とは思えない地獄絵図」だったと語っておられました。家の近くの共同防空壕で母さんとお姉さんに会うことができ、抱き合っただけの間、大けがを負っていたお母さんもお姉さんも、何も治療を受けることができないまま、8月16日の朝、そして翌17日夜に続けて亡くなられたそうです。

思い出すのもつらい、ご自身の体験をみなさんに語ってくださったのは、次の社会を担うみなさんへの強い願いからです。



原爆で命を奪われた人たちの死を無駄（むだ）にしてはいけません。

ヒロシマを最初で、ナガサキを最後の被爆地にしてほしいのです。

この十八中のみんなも、豊中のみんなも、日本、世界のみんなが仲よくし、思いやりを持って接していけば、戦争をすることも核兵器を使うこともないのです。

核と戦争のない平和な世界が一日も早く来ることを願っています。

たった一つしかない命、家族や友だちを大切にしてください。

わたしたち一人一人が「平和」についてイメージを持ち、その実現に努めていけたらと思います。

原爆パネル展を今週いっぱい延長します

特別棟3階の美習室の「ナガサキ」パネル展は昨日13日で終了予定でしたが、伊達さん、高橋さんが昨日新たなパネルを貸してくださったので、パネルを入れ替えて16日（金）の放課後まで継続することにしました。ぜひ、見てください。懇談で来られた保護者のみなさまも、よろしければご覧ください。



視点の冒険「私の美・十八中の美」

2、3年生が発見した「十八中の美」の写真が職員室前に展示されています。普段はまったく意識もしない十八中の風景の中に、新たな視点で見つけ出した「美」の感性がすごく面白いです！「十八中の風景って素敵だな」と教えられました。



募集しています！

「人権啓発パネル」に、みなさんの声を添（そ）えてみませんか？

*豊中市が2019年に作成した「人権啓発パネル」を広く市民に知ってもらうために、市内中学生の親しみやすい音声ガイドをつけて、豊中市のホームページ等で公開しようというものです。（下はパネルの一例。全部で15枚ほどあります）



収録時期 9月以降

収録パネル、収録原稿 豊中市のホームページを参照

市ホームページ→人権・文化・スポーツ→人権文化のまちづくり→

人権啓発パネルなど→身近なことから人権を考える

申し込み 生徒会やクラブなどの団体でも、個人でも申し込みができます。7/20（火）終業式の日が締め切りです。

担任の先生か、直接校長、教頭に申し出てください。

主催 豊中市人権政策課 人権平和センター豊中

「人権作文」を書いてみませんか？（第68回人権作文コンテスト）

人権は、みなさんが幸せに生きるための大切な権利です。自分の身の回りのことや、ニュースなどで見聞きしたことをもとに、「人権作文」を書いてみませんか？テーマは友だち関係やいじめのこと、いろんな立場の人が共生すること、平和のこと、身の回りのことで気になったことなどでみなさんが感じたことや、伝えたいことを作文にしてください。

作文の枚数 400字詰原稿用紙5枚以内

作文の〆切 8/27（金）夏休み中に作文に取り組んでください。担任の先生を通じてか、直接校長か教頭まで提出してください。

備考 過去5年間の入賞作品は大阪法務教区のホームページに公開されています。

主催 大阪法務局・大阪府人権擁護委員連合会

